

2021年度卒業式・学位授与式 学長式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学後、勉学に励まれ、研鑽を積み重ね、それぞれの課程を修了されて、学士、修士、博士の学位を取得されました。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。また、御父母の皆様、関係者の皆様に対しても、今日まで、長年にわたり、守り育て、支えてこられたご労苦に対して、深い敬意とともに、心よりの感謝を申し上げます。

さて、今年の卒業式は、長いパンデミックの渦中にあり、感染対策を講じた特異な形式での式典とならざるを得ませんでした。ここに多くの卒業生の皆さんをお迎えして、その努力を讃え、お祝いし、新しい人生を歩みだす慶びを共にすることができますことを、あらためて心から喜びたいと思います。同時に、今日のこのときも、新型コロナウイルスから尊厳ある命を守るために奮闘努力されている世界中の医療従事者の皆様に対して卒業生の皆さんと共に、心からの感謝の気持ちと敬意を表したいと思います。

皆さんにとって、この2年余の学生生活は、突然のキャンパス閉鎖をはじめ、対面授業からオンライン授業への変更、部活、サークルの活動停止、さらに、学友との交流の自粛に伴う孤独な生活など、極めて特殊な環境の元での日々を過ごされました。唐突で理不尽とも思える、想定外のさまざまな状況とその変化にも、皆さんは良く耐えられ、困難な学業に勤しみそれぞれの学位を取得されたことは、人として大きな成長の証であり、大変誇らしく思います。

さて、神奈川大学の卒業生は、23万人を超えており、数ある日本の四年制大学のなかで、卒業生数の多さは10数位に位置づけられています。また、本学の卒業生組織である宮陵会には、国内外に会員組織があり、ロンドン、ロサンゼルス、サンパウロ、上海、バンコクなどの海外主要都市にも支部組織があります。卒業生は、国内外で活躍されており、なかには、1974年3月に経済学部経済学科を卒業され、株式会社ヤクルト本社の代表取締役社長を務められておられる成田浩氏や、1982年3月に外国語学部英語英文学科を卒業され、ファイナルファンタジーシリーズの音楽監督を務められた作曲家の植松伸夫氏などもおられます。皆さんは、今後、これらの諸先輩とともに、宮陵会の一員として名を連ねることになります。

さて、皆さんが学ばれた神奈川大学とは、いかなる学び舎であったのでしょうか。近年、大学の評価は、第三者機関による世界の基準に則して示されるようになってきました。例えば、昨年秋にイギリスの高等教育情報誌である、タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した「T.H.E.世界大学ランキング」に、本学が世界の上位5%内の大学として改めて掲載されました。このことは、本学が世界有数の大学の1つであることを意味しております。この高い評価の根底には、本学の研究力と教育力の高さがあります。大学の評価は、世界の基準では、入試の偏差値などではなく、社会に貢献できる研究力と教育力にあるのです。

また、本学は2018年に「タイバーシティ宣言」を表明して、世界の恒久平和と人類の幸福の実現に貢献できる良識ある市民を育成し、社会に存在する差別や偏見の根源的な解明と解決をめざすことを誓いました。

さらに2019年の「SDGsへの神奈川大学のコミットメント」では、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの持続可能な開発目標は、本学創立の使命にも適うものであり、SDGsの達成に向けた教育・研究を一層推進していくことを表明いたしました。

「人は実業家や学者、官僚である前に、まず人間であれ」と創立者の米田吉盛先生が説かれて以来、本学は、卓越した研究を推進するとともに、学問による「人づくり」に努めてまいりました。皆さんは、本学で、日々の学問、すなわち、学びて問うことを通して、生涯の糧となる自ら考える力を培うことで人としても成長し、それぞれの専門領域における世界を担う知見を深めてこられました。また、皆さんが取得された学位には、これを契機として、学び続け、生涯を通して精進されることへの期待も含まれております。

新世紀に入り、私たち人類はますます多元的な価値観と複雑な社会構造のなかで生きていかねばなりません。学問は、「人類の生存条件の辛さを軽くすることにある」ものであり、英国経済学者の泰斗であるジョン・スチュアート・ミルも「人間性を高めるとともに人間社会の新たな問題に対処しうる能力を高める事になる」としております。皆

さんが学びつづけることは、人としての深みとともに社会性を高めることになることを理解してください。

さらに、私たちは、このコロナ禍に向き合い対峙する中で、これまで見過ごされていた社会システムの不備や内在する諸問題が浮き彫りとなり、私たちの社会には、未だに多くの難題が残されたままであることを、図らずも思い知らされました。特に、「人権」は守られているか、「人間の尊厳」を大切にしたい社会は実現しているか、さらに、ロシアのウクライナ軍事侵攻の報道からは、私たちは「平和」を維持するために何をなすべきかなど、現代社会の課題は山積しています。これらの困難を乗り越えて、新しい社会を作り上げる課題は、とりわけこれから巣立つ若い皆さんが主導的に解決していかねばなりません。だからこそ、皆さんには、本学の「ダイバーシティ宣言」にあるように、人権と自由を守り、個性を認め、差別のない「平和」な共生社会の実現を想像(イメージ)しながら、今後も学び続けることを期待したいと思います。

現行の資本主義社会は、経済成長をもたらす魅力溢れる社会システムですが、資源の枯渇等の制約条件を考慮すると、その恩恵をそのまま継続して享受することはできなくなるでしょう。また、「ワシントン・コンセンサス」と呼ばれる新自由主義的政策パッケージとグローバリズムの波及は、世界経済の閉塞状態を打破する相応の役割を果たしてきましたが、富がいきわたるトリクルダウン効果も確認されず、社会に想定外の富の不平等と、中間層の衰退、格差の拡大をもたらしました。さらに「パクス・アメリカナ」の終焉とパワーバランスの変動による不安定な国際情勢は、人類史的な課題とされる状況下にあります。

とはいえ、私たち人類は、長く「平和」を希求し、貧困の撲滅と富の公正な分配をもたらす包摂的な経済成長を目指してきました。国連が2015年に策定したSDGsは、あらゆる形態の貧困の撲滅を人類が取り組むべき普遍的な課題としています。ここでは、すべての人々に向かい合い、誰一人取り残されない「平和」な世界の実現を目指すとされています。これらの課題の解決に多くの企業も貢献しています。また、環境、社会、ガバナンスにやさしいESG投資も、米大手投資機関の投資基準のスタンダードとなっています。さらに、アメリカのビジネス・ラウンド・テーブルも、2019年8月に株主第一主義を修正して、ステークホルダーすなわちすべての関係者に利益をもたらす企業の達成に合意しています。日本においても、自らの会社を、社員、株主、仕入れ先、顧客、そして地域社会に利益を還元する社会の公器とする公益資本主義を目指す企業も増えつつあり、これらは希望ある未来の共生社会の礎となるものです。

資本主義社会の未来は、実は、誰にも分からない、不確実で予測不可能なものです。とはいえ、本学が掲げた「ダイバーシティ宣言」と「SDGsへのコミットメント」に真剣に向き合うことで、人種、民族、宗教を超えて、多様な価値観を共有し、寛容な、人類の共生を持続可能とする社会を創生する人材、すなわち、「平和」と「人間の尊厳」を大切にしたい「誰一人取り残されない」社会を創生する人材は、世界の恒久平和と人類の幸福の実現に貢献できる良識ある市民を輩出する神奈川大学の卒業生から生まれるものと信じます。

最後になりますが、「人をつくる」大学であり、「ダイバーシティ宣言」と「SDGsへのコミットメント」を表明した神奈川大学で学んだことを誇りに、実社会においても学ぶ姿勢を忘れず、世界の恒久平和と人類の幸福の実現に皆さんなりに貢献されることを期待しています。

そして、皆さん一人ひとりが、「平和」を希求する「尊厳ある人間」であること、さらに、自らが未来を担う「社会の財産」でもあることをも自覚して、健康に心がけて、皆さんの人生がより良いものになりますよう心より祈念して私からの式辞といたします。

令和4年3月22日
神奈川大学長 兼子 良夫